

2016年5月11日
東日本旅客鉄道株式会社

JR東日本と地域の農家が協働する農業法人が、 福島県いわき市と新潟県新潟市で、いよいよ栽培を開始します！

- JR東日本グループでは、「グループ経営構想V ～限りなき前進～」の中で「地域に生きる」を一つのコンセプトとし、地産品の販路拡大や6次産業化に向けたものづくりに取り組んでいます。
- 福島県いわき市と新潟県新潟市において、JR東日本が地域の農家と連携して設立した農業法人（農地所有適格法人）が、今春から農作物の栽培を開始することとなりました。
- 「(株)JRとまとランドいわきファーム」(本社：福島県いわき市、代表取締役社長：元木寛)は、太陽光利用型植物工場でトマトを栽培し、首都圏のJR東日本グループや隣接する6次産業化施設で活用していきます。
- 国家戦略特区の規制緩和を活用して設立した「(株)JR新潟ファーム」(本社：新潟県新潟市、代表取締役社長：片野秀雄)は、水田で酒米(酒造好適米)を栽培し、地域の酒造メーカーにより日本酒を製造する予定です。
- 今後も地域との連携を深め、農作物の栽培や6次産業化の推進、食文化の情報発信等を通じて地域の魅力を向上し、地域経済の活性化や交流人口の拡大に貢献してまいります。

1. JR東日本グループが農業に取り組む意義について

JR東日本グループでは、地域との連携を目的に、生産者の想いや地域の魅力を「モノ」を通じてエキナカなどの場で発信するとともに、地域産業の発展や担い手の育成をめざして6次産業化に向けたものづくりを推進しています。

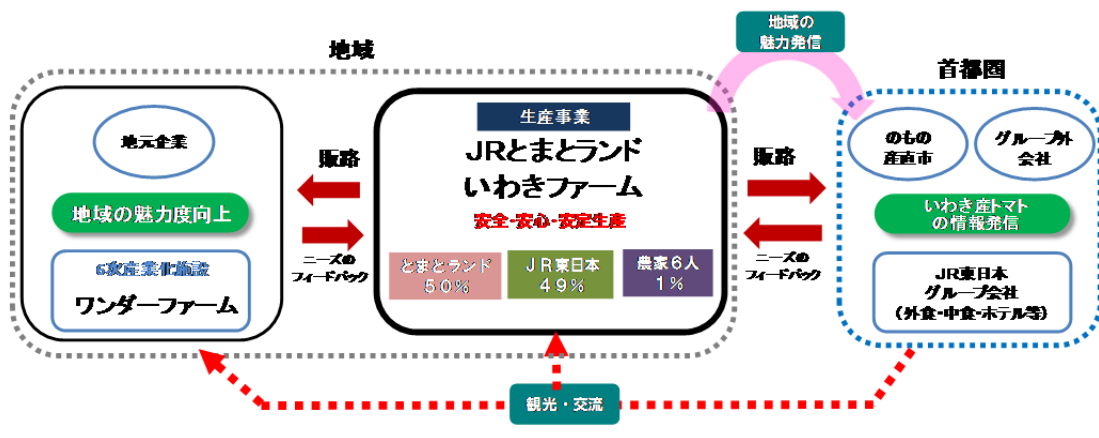
これまでの取組みを通じ、1次産業である農業が、地域の「モノ」や「ヒト」を支えている重要で不可欠な存在であることを改めて認識したため、同じ想いを持つ地域の農家とともに農地所有適格法人を設立し、栽培に向けた準備を進めてきました。そしていよいよ、トマトは福島県いわき市で、酒米は新潟県新潟市で、栽培を開始いたします。

今後は、地域の農家と農作物の栽培や6次産業化に取り組むとともに、魅力的な食文化の情報発信や、その体験などのコトづくりを通じて交流人口の拡大を図ることで、JR東日本グループならではの地方創生をめざしてまいります。

2. (株)JRとまとランドいわきファームについて

(1) これからの取組みについて

- 2014年9月に設立した「(株)JRとまとランドいわきファーム」は、収穫したトマトをいわき市場で販売することに加え、JR東日本グループや地域事業者と連携して加工食品の製造やレストラン等でのメニューにも活用する予定で、トマトの付加価値向上と販路拡大へ取り組みます。
- 「(株)JRとまとランドいわきファーム」に隣接する6次産業化施設「(株)ワンダーファーム」内では、トマトの販売やジュース・ジャムなどの加工食品の製造、ビュッフェレストランでのメニューの提供などを計画しています。
- 夏からは「(株)JRとまとランドいわきファーム」において、一般のお客さまが参加できるトマトの収穫体験を実施します。また、「(株)ワンダーファーム」ではトマトの加工体験や料理教室を実施し、採りたてのトマトをその場で美味しく食することができる、現地ならではのお客さまサービスを提供します。



(2) 栽培方法について

- 東北トップクラスの日照時間を誇る福島県いわき市に、太陽光を十分に活用できる栽培施設を新設しました。「太陽光利用型植物工場」と呼ばれる施設で最適な栽培環境を保ち、安定した収穫が見込めます。
- 約 1.7ha の栽培施設内は、太陽光の透過性と拡散性が高いフッ素樹脂フィルムで覆われ、温度や湿度に合わせて空調設備や天井窓の開閉、必要な量の養液や二酸化炭素などがコンピュータで管理され、トマトにとって最も生育しやすい環境が24時間、365日作られます。
- 生育には土を使わず、ヤシの実の皮や繊維を固形状にした「ヤシガラ培地」にトマトの苗を植え付け、肥料を水に溶かした養液を流すことによって栽培します。



【栽培施設の外観】



【PCによる環境制御】



【トマトの苗】



【収穫体験イメージ】



【トマト加工食品】



【ビュッフェレストランでの提供】



(3)栽培品目について

- 利用シーンに合わせた「大玉」、「中玉」、「ミニトマト」の3つのサイズのトマトを栽培します。



- 大玉 ……実がしっかりしていて、加工しやすく味が良い「リンカ409」と「富丸ムーチョ」
- 中玉 ……ブドウのように房ごと収穫できる「カンパリ」
- ミニトマト……人気の「アイコ」を中心に、「いわき」ではお馴染みの「フラガール」の名前を持つミニトマトなど 8種類

■大玉



【リンカ 409】



【富丸ムーチョ】

■中玉



【カンパリ】

■ミニトマト



【アイコ】 【フラガール】

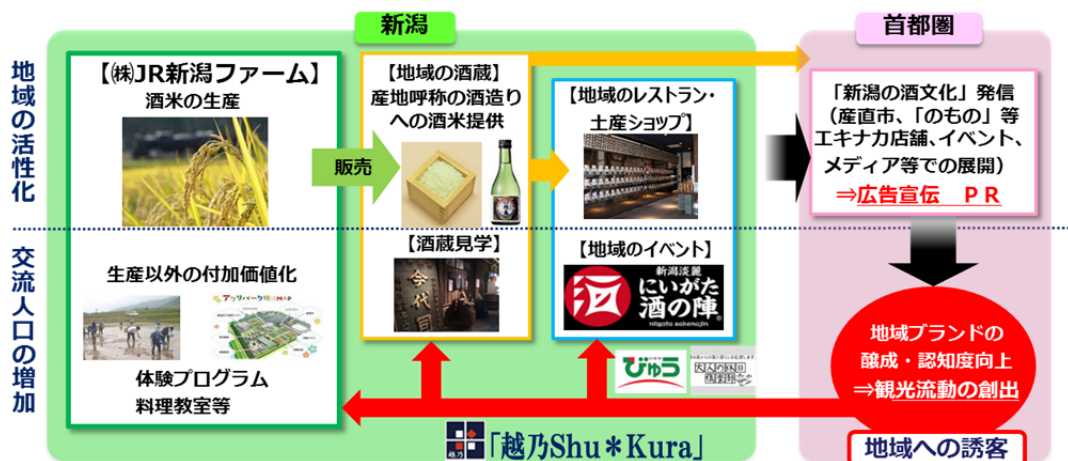
(4)スケジュールについて

- 4月21日～ トマトの苗植え
- 5月20日 「(株)JRとまとランドいわきファーム」「(株)ワンダーファーム」共同開催によるグランドオープン記念式典(当日の一般営業は行いません)
- 6月下旬～ トマトの収穫・出荷開始
- 7月中旬頃～ 栽培施設内でのトマト収穫体験サービス開始
- 9月頃～ 収穫したトマトを活用した加工食品の販売、飲食メニューの提供開始

3. (株)JR新潟ファームについて

(1)これからの取組みについて

- 今年1月に国家戦略特区の規制緩和を活用して設立した「(株)JR新潟ファーム」は、新潟の米と水にこだわった日本酒づくりをめざしている地域の酒造メーカーと連携し、「新潟の日本酒」の品質と魅力のさらなる向上に取り組めます。
- また、JR東日本グループではこれまでも観光列車「越乃Shu*Kura」の運行や地域イベントと連携した旅行商品を通じて「新潟の日本酒」ブランドを観光資源として発信してきました。
- 今後も引き続き新潟市および地域の事業者との連携を深め、「(株)JR新潟ファーム」や地域の酒造メーカー、日本酒の小売事業者等とともに、新潟の日本酒文化や食文化の振興を目的とするツーリズム等の検討をさらに進め、地域の魅力向上へ向け活動していきます。



(2)栽培方法等について

- 新潟県新潟市南区の水田約 2ha を使用し、稲作を行います。
- 5月6日、日本酒の原料生産から加工・販売まで、顔が見える地域に根差した取組みをめざし、地元行政や酒造メーカーをはじめとする関係者の方々と田植えを行いました。



【田植えの様子①】



【田植えの様子②】



【集合写真】

(3)栽培品目について

- 日本酒の原料となる酒米のうち、新潟を代表する「五百万石」を栽培します。
- 「五百万石」は、新潟県の気候風土に最も適した栽培特性を有し、かつ新潟県の酒造環境や酒造技能に適した品種と言われ、多くの新潟県内の酒造メーカーに使用されています。

(4)スケジュールについて

- 5月3日～ 酒米の田植え
- 9月上旬 酒米の収穫(稲刈り)
- 10月 酒米の酒造メーカーへの出荷
- 12月以降 収穫した酒米を活用した日本酒の販売



もの1-2-3プロジェクトとは…

JR東日本グループが推進する、6次産業化に向けたものづくりプロジェクト。

JR東日本グループネットワークを活用し、農林漁業の6次産業化に向けたものづくりを応援しています。

【農業法人概要】

(株)JRとまとランドいわきファーム

1. 所在地：福島県いわき市四倉町
2. 設立日：2014年9月4日
3. 資本金等：100百万円
4. 出資者：(有)とまとランドいわき 50%、JR東日本 49%
地域農家 6名 1%
5. 代表者：元木 寛
6. 施設：敷地面積 約 2.4ha、施設面積 約 1.7ha
7. 生産量：600t/年(予定)



【太陽光利用型植物工場イメージ】

(株)JR新潟ファーム

1. 所在地：新潟県新潟市南区小蔵子
2. 設立日：2016年1月27日
3. 資本金等：5百万円
4. 出資者：地域農家 2名 75%、JR東日本 25%
5. 代表者：片野 秀雄
6. 圃場：約 2ha
7. 生産量：10t/年(予定)



【田植え後の水田】

【参考】

(株)ワンダーファーム

「五感を耕す。農と食の体験ファーム」をコンセプトにした6次産業化施設であり、直売所「森のマルシェ」・加工工場「森のアグリ工房」・ビュッフェレストラン「森のキッチン」などを展開する。

1. 所在地：福島県いわき市四倉町中島字広町1
2. 設立日：2013年4月5日
3. 資本金：120.5百万円
4. 出資者：(有)とまとランドいわき、東北エア・ウォーター(株)、
(株)ふくしま地域産業 6次産業化復興ファンド
5. 代表者：元木 寛
6. 事業内容：農産物加工、農産物販売及び飲食・体験事業



【6次産業化施設イメージ】

※ 2016年2月24日より営業開始